

ドリブル

緊急事態宣言 解除、活動開始へ

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、緊急事態宣言が県内全域に9月30日まで延長されていましたが、この度解除され、10月より市内小学校のグラウンド開放が平常に戻りました。感染者数は、減少していますが、各自感染予防対策を徹底し、活動しましょう。

発行：
茅ヶ崎サッカー協会
広報委員会
第 508 号
(Web版 013号)

2021年度 チビリンピック予選大会開催 優勝：カルペソール湘南

2021年度チビリンピック (U11) 市内予選会が、10月3日予選トーナメント、10日決勝トーナメントが行われ、カルペソール湘南が、優勝した。この大会の優勝チームは、12月開催予定のチビリンピック茅ヶ崎市代表として出場する。

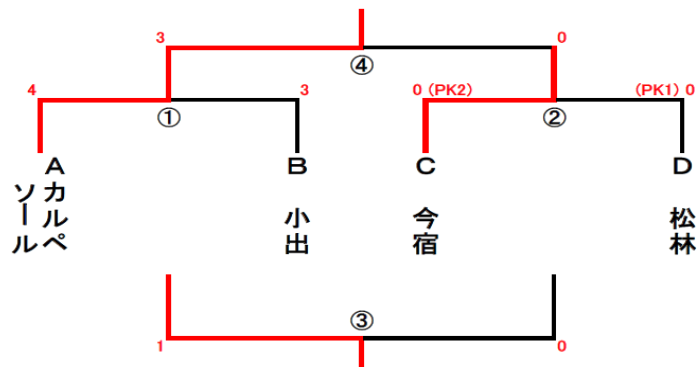
緊急事態宣言発令の為、1か月遅れての開催となった。解除されての公式戦ではあったが、選手はブランクを感じることなく、熱戦を繰り広げていた。

【成績】

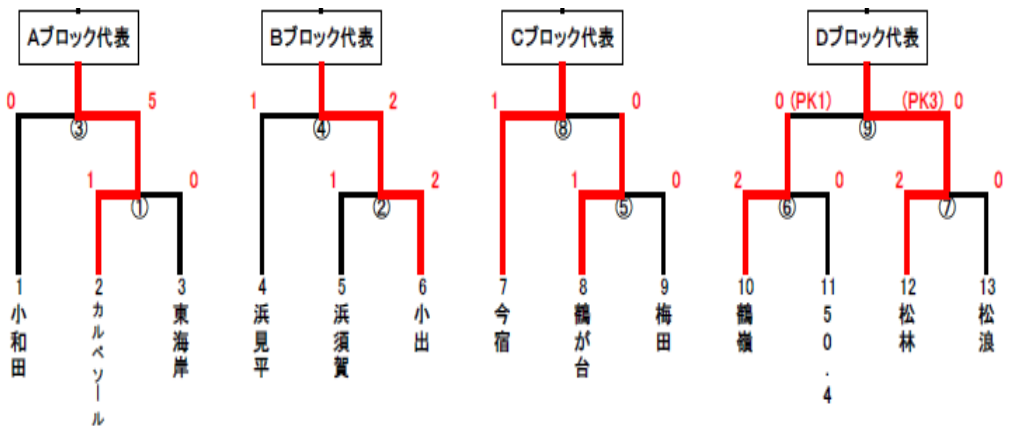
- 優勝：カルペソール湘南
- 準優勝：FC今宿
- 第3位：小出SC
- 敢闘賞：FC松林ジョーズ



【決勝戦：カルペVS今宿】



【表彰式】



～2021年度 オールドリーグ 前半戦結果 報告～

「ウィット東海岸オールドの9連覇を阻止するチーム出るか！」

オールド委員会委員長 斎藤 俊

5月1日より開幕した2021年度のオールドリーグは、10月2日で折り返し点を経過しました。現在、リーグ戦8連覇（優勝9回）のウィット東海岸オールドが昨年の全勝優勝に引き続いて全勝街道まっしぐらです。

オールドリーグの2021年度の活動はコロナ渦の中協会他関係各団体の協力により活動を続けてきています。引き続き活動を継続していく上でオールド参加チーム他関係者の継続した感染防止対策の徹底をお願いいたします。

オールドリーグでは、2021年度も昨年に引き続き『熱中症対策』と『コロナ感染防止対策』の為、年間を通じて飲水タイムを実施しています。また、今年度はウィット東海岸オールドの9連覇を阻止するチームが出てくることを期待したいと考えます。**是非に！**

2021年度茅ヶ崎オールドリーグ成績表 (2021.10.2現在)

	東海岸	鶴橋	鶴が台	赤羽根	今宿	浜須賀	みずき	松浪	浜見平	1FC	鳥入C	アグリス	S. F. C.	試合数	勝	負	分	得点	失点	得失	勝点	順位
対外東海岸対峙	*	300	-	400	301	-	-	-	-	300	300	400	602	7	7	0	0	26	3	23	21	1
FC鶴橋オールド	0●3	*	1●2	-	-	100	-	-	200	100	-	700	1Δ1	7	4	2	1	13	6	7	13	5
鶴が台オールド	-	201	*	-	-	-	400	701	0●1	200	-	300	300	7	6	1	0	21	3	18	18	2
湘南茅ヶ崎FC赤羽根	0●4	-	-	*	-	1●2	400	201	500	302	300	401	-	8	6	2	0	22	10	12	18	4
FC今宿オールド	1●3	-	-	-	*	200	402	1●3	200	300	700	-	100	8	6	2	0	21	8	13	18	3
FC浜須賀オールド	-	0●1	-	201	0●2	*	3●4	200	0Δ0	0●1	-	500	-	8	3	4	1	12	9	3	10	6
みずきFC	-	-	0●4	0●4	2●4	403	*	0●2	2●4	-	-	-	-	6	1	5	0	8	21	-13	3	11
松浪SCオールド	-	-	1●7	1●2	301	0●2	200	*	-	-	-	-	-	5	2	3	0	7	12	-5	6	9
浜見平OYA-G	-	0●2	100	0●5	0●2	0Δ0	402	-	*	-	-	-	-	6	2	3	1	5	11	-6	7	8
1FC茅ヶ崎四十雀	0●3	0●1	0●2	2●3	0●3	100	-	-	-	*	-	-	1●2	7	1	6	0	4	14	-10	3	10
鳥入クラブ	0●3	-	-	0●3	0●7	-	-	-	-	-	*	3Δ3	0●6	5	0	4	1	3	22	-19	1	12
アグリス	0●4	0●7	0●3	1●4	-	0●5	-	-	-	-	3Δ3	*	1●4	7	0	6	1	5	30	-25	1	13
S. F. C.	2●6	1Δ1	0●3	-	0●1	-	-	-	-	201	600	401	*	7	3	3	1	15	13	2	10	7

～コーナーフラッグ～

茅ヶ崎サッカー協会 一般委員長 小幡美樹志

「久保の涙と飛躍に期待」

新型コロナウイルス感染拡大の影響で1年延期となった東京オリンピック2020が無事に開催された。懐疑的な世論もありながら、無観客の大会を準備し支え続けた関係者にアスリートが全力で応えたことに大きな価値があったと思う。

サッカーでは男子が3位決定戦に臨んだもののメキシコに1-3で敗れて53年ぶりのメダル獲得はならなかった。主将の吉田麻也選手が「負けるべくして負けた」と完敗を認めたように、世代を問わず試合巧者で知られるメキシコに決定的なシュートはことごとく阻まれ、2-1で勝利したグループリーグとは逆の展開となり、PK、FK、CKから失点した。

試合終了直後ピッチに突っ伏し、座り込んだ後も人目をはばからず号泣していた久保健英選手が印象的だった。チームメイトやメキシコの選手が励ましにきてても、あふれ出る涙は一向に止まらなかった。

ここまでの人生のすべてをサッカーに捧げてきて20歳で日本の司令塔を担った若者の胸に去来したのは、目標を達成できなかった悔しさなのか、のちに「自分が（ゴールを）決めていれば・・・」と語った責任感なのか、二度と同じ仲間と試合ができない寂しさなのか、あるいはそのすべてだったのか。

いずれにしても初めて国を背負って国際大会を戦い、グループリーグ3戦すべてで先制ゴールを挙げ、準決勝ではスペインを恐れさせ追いつめた久保選手は期待以上の素晴らしい活躍をしたといえる。日本サッカーの父デットマール・クラマー氏は言った。

「サッカーは子どもを大人にし、大人を紳士にする」

久保選手のさらなる飛躍に期待したい。